



2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年1月14日

上場会社名 株式会社 A B E J A
コード番号 5574 URL <https://www.abejainc.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役 C E O (氏名) 岡田 陽介
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 C F O (氏名) 英 一樹 TEL 03-6387-9222
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第1四半期の業績 (2025年9月1日～2025年11月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	1,198	55.9	219	131.8	219	131.5	182	113.3
2025年8月期第1四半期	768	17.7	94	66.7	94	66.4	85	79.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第1四半期	18.41	17.46
2025年8月期第1四半期	9.19	8.26

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第1四半期	5,261	4,694	89.2
2025年8月期	5,318	4,471	84.0

(参考) 自己資本 2026年8月期第1四半期 4,693百万円 2025年8月期 4,469百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—				
2026年8月期 (予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の業績予想 (2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,400	22.7	500	12.1	498	10.2	439	△2.1	44.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期1Q	9,910,300株	2025年8月期	9,764,800株
② 期末自己株式数	2026年8月期1Q	115株	2025年8月期	115株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年8月期1Q	9,890,248株	2025年8月期1Q	9,285,461株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当社は「ゆたかな世界を、実装する」を企業理念に掲げ、テクノロジーの産業界への社会実装を支援することにより、産業横断的なイノベーションの創出を目指しています。その実現に向け、ミッションクリティカル業務へのAI導入支援のため、基盤システムとなるABEJA Platformの開発・導入・運用を行っております。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の拡大により、国内景気には緩やかな回復の動きがみられます。一方で物価上昇、不安定な為替相場、米国の政策動向により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の事業環境におきましては、ビジネスプロセスのデジタル化や既存のビジネスモデルを変える新たな試み、大規模言語モデル（Large Language Model：LLM）等の生成AIへの関心・利活用は広がりをみせ、企業のIT投資意欲は引き続き強い状況にあります。今後は少子高齢化に伴う労働生産人口の減少等を背景に、LLMの利活用に加え、AIロボティクスの検討・適用も着実に広がっていくものと捉えております。

このような環境のもと、当社はミッションクリティカル業務における堅牢で安定的な基盤システムとアプリケーション群であるABEJA Platformを提供し、生成AIをはじめとする最先端技術による運用を「人とAIの協調」により実装してまいりました。

当第1四半期累計期間においても、エンタープライズ案件と公的プロジェクトを並行して推進いたしました。その結果、売上高及び営業利益は四半期ベースで過去最高となりました。売上総利益率は前年同期比で低下しておりますが、戦略的案件への取り組みによるものであり、想定範囲内となります。また、販管費の伸びは売上高の伸びを下回り、販管費の適切なコントロールが利益成長に寄与いたしました。

足元では、半導体、データセンター整備やクラウド・オンプレミスの基盤整備の進展を背景に、AI活用は「導入」から「継続運用」へと重点が移りつつあります。当社はABEJA Platformを、企業のデータ・業務を束ね、LLMをはじめとするAIを安全かつ継続的に業務・現場へ展開する運用基盤（運用ハブ）として提供することで、AIバリューチェーンの活性化とAI活用の加速に伴う需要を取り込んでおります。引き続きLLM及びAIロボティクス（フィジカルAI）に注力し、デジタル空間に加えリアル空間（フィールドオペレーション）も含めたAIの社会実装を推進してまいります。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高1,198,567千円（前年同期比55.9%増）、営業利益219,263千円（前年同期比131.8%増）、経常利益219,264千円（前年同期比131.5%増）、四半期純利益182,078千円（前年同期比113.3%増）となりました。

また、当第1四半期末日後に、出版業界におけるAI利活用を軸とした新規事業の創出に向け、株式会社富士山マガジンスerviceと共同事業の検討を開始いたしました。同時に、当該共同事業検討における推進体制の強化を目的として、同社株式の9.32%（自己株式を除く発行済株式総数に対する割合）を取得しております。

当社はデジタルプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

なお、売上高については、「トランスフォーメーション領域」と「オペレーション領域」に分類しており、2025年8月期及び2026年8月期第1四半期累計期間の実績は次のとおりとなります。

（単位：千円）

領域の名称	2026年8月期 第1四半期累計期間（実績）		2025年8月期 （実績）	
		構成割合		構成割合
トランスフォーメーション領域	922,946	77.0%	2,746,630	76.6%
オペレーション領域	275,621	23.0%	838,779	23.4%
合計	1,198,567	100.0%	3,585,409	100.0%

トランスフォーメーション領域は、顧客ニーズに対応したABEJA Platformの導入支援とその周辺サービスを提供しており、仕組みづくり・構築フェーズに位置づけられます。なお、仕組みづくり・構築は段階的に進めていくため、多くの収入はフロー型（都度契約）となりますが、一方で長期間にわたる計画的なプロセスとなるため、継続顧客の割合は高くなっております。

・エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率（注）88.8%（2025年8月期）

（注）エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率は、既存顧客（前事業年度に売上が発生したエンタープライズ顧客）の当事業年度の売上高/エンタープライズ顧客の当事業年度の総売上高

オペレーション領域は、ABEJA Platform上で人とAIの協調による運用を行う運用フェーズに位置づけられます。

このため、主な収入はストック型の継続収入となります。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期会計期間末の資産合計は5,261,815千円となり、前事業年度末に比べ56,359千円減少いたしました。これは主に売上高増加に伴い売掛金及び契約資産が180,770千円増加した一方で、法人税等の支払いにより現金及び預金が328,235千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第1四半期会計期間末の負債合計は566,977千円となり、前事業年度末に比べ279,460千円減少いたしました。これは主に売上計上により流動負債のその他に含まれる契約負債が116,282千円減少したこと、賞与引当金が86,434千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第1四半期会計期間末の純資産は、4,694,838千円となり、前事業年度末に比べ223,101千円増加いたしました。これは新株予約権行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ20,834千円増加したこと及び四半期純利益の計上により利益剰余金が182,078千円増加したこと等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2025年10月15日に開示いたしました「2025年8月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。なお、業績予想は発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,586,017	4,257,782
売掛金及び契約資産	463,070	643,841
仕掛品	12,992	22,639
貯蔵品	2,404	2,620
未収入金	1,104	41,893
その他	39,694	81,765
貸倒引当金	△738	△738
流動資産合計	5,104,545	5,049,803
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	30,216	31,765
減価償却累計額	△13,344	△15,513
工具、器具及び備品（純額）	16,871	16,251
有形固定資産合計	16,871	16,251
無形固定資産		
ソフトウェア	14,490	13,493
無形固定資産合計	14,490	13,493
投資その他の資産		
繰延税金資産	162,782	162,782
その他	19,484	19,484
投資その他の資産合計	182,266	182,266
固定資産合計	213,629	212,011
資産合計	5,318,174	5,261,815
負債の部		
流動負債		
買掛金	498	63
未払金	159,807	174,466
未払法人税等	74,069	49,162
賞与引当金	157,661	71,226
役員賞与引当金	51,479	—
その他	402,921	272,058
流動負債合計	846,438	566,977
負債合計	846,438	566,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	895,936	916,770
資本剰余金	2,679,513	2,700,348
利益剰余金	894,213	1,076,291
自己株式	△272	△272
株主資本合計	4,469,391	4,693,139
新株予約権	2,344	1,698
純資産合計	4,471,736	4,694,838
負債純資産合計	5,318,174	5,261,815

（2）四半期損益計算書
（第1四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期累計期間 （自 2024年9月1日 至 2024年11月30日）	当第1四半期累計期間 （自 2025年9月1日 至 2025年11月30日）
売上高	768,723	1,198,567
売上原価	281,897	493,737
売上総利益	486,826	704,830
販売費及び一般管理費	392,215	485,567
営業利益	94,611	219,263
営業外収益		
受取手数料	625	199
その他	104	341
営業外収益合計	729	540
営業外費用		
為替差損	467	269
株式交付費	155	270
その他	0	0
営業外費用合計	623	539
経常利益	94,717	219,264
税引前四半期純利益	94,717	219,264
法人税等	9,357	37,186
四半期純利益	85,359	182,078

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間（自 2024年9月1日 至 2024年11月30日）

当社は、デジタルプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第1四半期累計期間（自 2025年9月1日 至 2025年11月30日）

当社は、デジタルプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	2,326千円	3,166千円